

校訓	盡己	令和7年度学校通信 「松中だより」 第27号	発行日	令和8年3月17日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【第50回卒業証書授与式 答辞】

・・・前略・・・ そして、今日まで一緒に歩んできた3年生のみんな。

私たちは、『消極的で静かな学年』と言われることもありました。確かに先輩方のように周りを圧倒するような勢いがあったわけではないかもしれませんが。

けれどみんなの姿に、何度も救われてきました。誰が失敗したとき、責めるのではなく、ただ当たり前のように受け入れる。派手な自己主張はしなくても、自分の役割に黙々と、誠実に熱中し続ける。そんな『静かだけど折れない強さ』が、私たちの学年の本当の色だったと感じています。これから先、新しい場所で自分の声が届かないもどかしさを感じたり、壁にぶつかったりすることもあるでしょう。でも、そんな時は思い出してください。あの教室で、言葉にせずとも互いを認め合っていた仲間存在を。

3年前、私たちの手元にあった、あの1枚の学年通信。そこに記されていた「友愛」という2文字。

あの日、その言葉はまだ、インクの匂いがするだけの、どこか遠い国の言葉のように感じられました。



近江八幡で、自分の弱さと向き合ったあの静かな夜。神戸や長崎の街を歩き、命の重さを肌で感じたあの日。そして、夏休みからダンスリーダーたちが紡ぎ、全員で踊りきった、あのグラウンドの熱狂。振り返れば、その一步一步が、私たちにとっての「友愛」の正体を探す旅でした。

それは、単に仲良くすることではありませんでした。時にぶつかり、時に沈黙し、それでも相手を信じて手を伸ばすこと。誰かの痛みを自分のこととして引き受け、誰かの喜びを自分のこととして誇ること。

3年間かけて、私たちはようやく、この言葉に魂を吹き込むことができました。これから私たちは、それぞれの道を歩き始めます。

誰かが立ち止まったとき、

誰かが迷ったとき、

私たちは「友愛」を、一生の御守りにして進んでいきます。

令和8年3月16日

卒業生代表

【学校長 式辞】

…前略…最後に「自分らしく」ということを伝えたいと思います

今年の3年生は「落ち着いている」とひとまとめにいわれることがよくありました。しかし、毎年思うのですが、一人ひとりには実に様々です。色に例えるならたった一色ではなく、とてもカラフルです。この3年間、学習に熱心に取り組んだ人、体育大会や文化発表会などの行事で活躍した人、生徒会や委員会活動に一生懸命取り組んだ人、それぞれの部活動に汗を流した人などたくさん見てきました。また学校外の活動でも、クラシックバレエやダンス、水球、野球、サッカー、バレーボール、カラーガード、ブラジリアン柔術、ピアノ、声楽、ミュージカルなど、それぞれの種目で活躍した人がたくさんいました。そして、家の手伝いを一生懸命した人、学校や教室で過ごすことは少なかったけれど、相談室に通い続けた人、家でしっかり自分と向き合った人、今も自分を探しつつけている人もいます。

「174通りの中学校生活」があり「174通りの自分らしさ」があり、「174通りの自分の物語」があったと思います。この物語はすべてが成功や感動の物語ではなかったかもしれません。なかには思い通りにならなかったものや、つらい物語もあったと思います。しかし「174通りの物語」は優劣や良し悪しがあったり、他人と比べたりするものではありません。そして、ひとつとして同じ物がない、尊く、美しいものだと思います。

先月開催された冬季オリンピックのフィギアスケート女子シングルの金メダリスト アリサ・リウ選手をご存知でしょうか？彼女は13歳で全米選手権に優勝し、4回転ジャンプを飛び、16歳で北京オリンピックに出場、「天才少女」と言われました。しかし、周囲の期待や様々なプレッシャー、幼少期からの過酷な「やらされる練習」「きめられた生活」で精神的に疲れ、燃え尽き、16歳で引退します。

それから2年間、スケートを離れている間に、多くの時間を家族や友人と過ごし、大学で心理学を学び、普通の十代の生活を楽しみながら過ごしました。この2年間は単なる休憩ではなく、「自分らしさを取り戻す時間」となりました。「周囲の期待ではなく自分のために生きる」という「自分の軸」をしっかりと築きました。そして、2024年に「やらされている」から「やりたい」という気持ちの変化をもって再びスケートの舞台に戻りました。アリサ・リウ選手はインタビューに次のように答えています。

「メダルなんて必要ない。この演技を通して、自分の物語をつたえたかった。」

自分を見失い、壊れてしまいそうな経験をし、人とのつながりの中で、「自分の軸」を築き、「自分らしさ」を取り戻したアリサ・リウ選手らしい言葉です。

これからみなさんが生きる世界は今まで以上に多様で、正解のない問いにあふれています。迷い、苦しみ、挫折しそうになることもあるでしょう。そんな時に、誰かが決めた「普通」や、SNS に流れる「誰かの正解」に自分を当てはめる必要はありません。「自分の軸」、「自分らしさ」を大切にしてもらいたいと思います。

一人ひとりが自分の色をもち、自分の速さで成長するからこそ、この世の中はカラフルで、豊かで、美しいのだと思います。みなさんが自分自身を大切に、唯一無二の自分の物語を堂々と歩いていくことを心から願っています。

では卒業生のみなさん、自分の物語、第二章のスタートです。素晴らしい自分の物語を紡いでいってください。

令和8年 3月 16日 伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

1, 2年生のみなさん。 温かい式をつくってくれてありがとうございました。